

メモリの最新市況動向を知りたい方へ

日々変動する半導体市況において、今後の製品トレンドや価格トレンドなど最新情報は気になることです。また、アプリケーションのメモリの大容量化、高信頼性の要求により、メモリにおいては、例えば、HDDからSSD、単品DRAMからDIMM等置き換えを検討するお客様も多くいらっしゃいます。

今回、半導体市況が最も速く動き出すメモリーメーカーによる、直近のメモリ市況と今後や、大手メモリーメーカーのNAND/DRAMのプロセストrendについて、解説いたしました。

メモリ市場全体の状況

メモリ市場は世界情勢等の要因で需要が大きく上下します。2022年後半から2023年にかけて、NAND/DRAMメモリを多く使用しているスマホやPC等の出荷台数が低迷し、メモリの市場在庫が積み増される状況となりました。その為メモリーメーカー各社は減産に踏み切り、その結果需給バランスが正常化しましたが、まだ完全な回復には至っておりません。

2024年に入り、各メモリーメーカーの収益は、ようやく黒字化しました。DRAMは生成AI需要の増加、NANDは価格高騰と市場在庫の整理が進み、各メモリーメーカーの業績は回復傾向にあります。

各メモリーメーカーの設備投資は、各社対応に違いが見られます。DRAMに対する設備投資は各社HBM向け等で増資していますが、NANDに対してはDRAMをもつメーカーは投資を減らしている状況です。

NAND FLASH市場の状況と今後の推移

NAND需要の約95%はSSDとスマートフォンです。2024年に入り各メモリーメーカーは下期需要に向け軒並み生産数増加傾向にあります。2022年の市況低迷の経験から保守的な動きとなっています。また価格に関しては2023年CQ3を底に高騰傾向となり、前クォーターの予測より傾向が強い状況となります。

DRAM市場の状況と今後の推移

DDR5を主軸としサーバやスマートフォンをメインに総搭載容量が増加傾向にあります。NAND同様に2024年に入り各メモリーメーカーは下期需要に向け軒並み生産数増加傾向にあり、その中心となるのはHBMやDDR5製品となります。価格に関してはNAND同様、2023年CQ3を底に高騰傾向となり、NANDよりも長期化する見込みとなります。

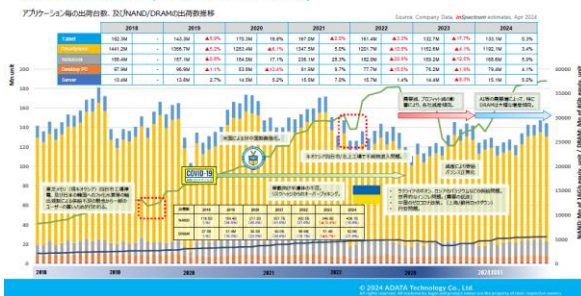
■ 本日の登壇者 ■

イデータテクノロジー・ジャパン株式会社

IA 日本事業部 営業部
プロジェクトマネージャー
大越 恒平 氏
メモリモジュールメーカーへ12年従事
(Sales)

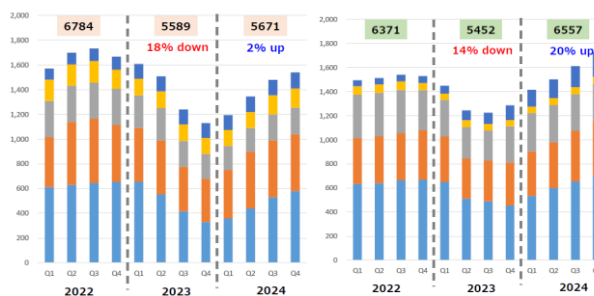
IA 日本事業部 技術部
ディレクター
志気 剛 氏
メモリモジュールメーカーへ24年従事
(FAE)

Market Trend (2018~2024FCST)



Market Trend (2018~2024FCST)

出所：投影資料より一部抜粋



Wafer input (左図：NAND 右図：DRAM)

出所：投影資料より一部抜粋

他のウェビナはこちらから

リョーサンウェブサイト

